

林業経営の収益性

林業経営の極度の低収益性を示すこの統計から、いま林業経営に求められていることを考えてみたい。平成14年度の森林・林業白書は、第二章「森林の整備、保全と山村の活性化」の1節「地球温暖化防止、生物多様性の保全に向けて」において、地球温暖化防止のためには、温暖化ガスである二酸化炭素の吸収源として、森林が重要な役割を発揮していると指摘している。

日本が、地球温暖化防止を掲げる、いわゆる京都議定書の目標を達成するためには、二酸化炭素の国内削減率6%のうち、3.9ポイントを森林の吸収に頼ることが前提とされている。そのためには、森林・林業基本計画

の目標どおりに森林整備がなされる必要がある。

しかし、一方、林業の経営は表のとおりである。平成12年度には年間の林業所得は260千円でしかない。平成8年の740千円から年々減少している。保有山林47ha、うち人工林30haの林家と言え、全国の平均が6ha弱であるからかなり大規模な森林所有者と考えてよい。まして「小規模林家においてをや」である。山村の高齢化と過疎化にこの所得減が拍車をかけ、林業経営の意欲は極度に低下している。

このような林業所得で環境を守るために林業を行っていくのは、労働することにより日々の糧を得て生きていくという意味における「産業」（職業・仕事）の限界をはるかに超えている。それでは、京都議定書を遵守する

のに可能な森林の整備水準はいかにして達成されるのか。この問いは、税の源泉や財政資金の配分の問題を含めて、都市住民を中心にした国民と、森林の保全と管理に多大な公益的機能の役割をまたひとつ負担させた行政に突きつけられている。（秋山孝臣）

林家経済の概況（保有山林面積20ha～500ha層の一戸あたり平均）

単位 価格：千円、面積：ha

区分	林業所得	林業粗利益	林業経営費	保有山林面積		
				計	人工林	天然林・その他
平 8年度	740	1,796	1,055	47.4	29.3	18.1
9	385	1,332	947	47.8	29.7	18.1
10	391	1,284	893	47.7	29.9	17.8
11	358	1,233	875	47.6	29.7	17.9
12	260	1,067	807	47.7	29.9	17.8

資料：農林水産省統計情報部「林家経済調査報告」

注1：数値は、階層別調査林家1戸あたり平均値から求めた加重平均値である。（20ha～500ha層）

2：沖縄県を含まない。